自然史博物館における観光情報の発信

~観光ブログ「岸ぶら」の取り組み~

きしわだ自然資料館 学芸員 風間美穂

1. はじめに

近年、ジオパークや世界遺産に登録された自然や産業、また、大規模な科学館や水族館、恐竜などをテーマとした博物館などの地域資源が観光に資するものとして広く認識され、マスコミなどで広く紹介される一方、小規模な地域博物館や日本の自然環境の多くは、そのような認識をされていないように思われる。しかし、地域の自然史博物館の使命のひとつである、資料収集や調査研究、また、その成果を公開する展示活動は、地域資源の発見や新たな視点の創造、また、地域資源の持続可能な利用に必要な、保全や活用に関する指針を考える際に、大きく寄与できるとも考えられる。

本稿では、2016年からきしわだ自然資料館関係者が、岸和田市の観光振興協会が管理運営を行うサイト



図 1. きしわだ自然散歩・ワニ目線

「岸ぶら」の観光ブログ「きしわだ自然散歩、ワニ目線」(図 1)で、当館の活動情報や地域の 自然に関する情報発信を行ったことによる効果を紹介するとともに、今後の展望や課題につい て考察する。

きしわだ自然散歩、ワニ目線の URL: http://kishibura.jp/blog/shizen/

2. 岸和田市の観光資源ときしわだ自然資料館

1) 岸和田市の観光資源

きしわだ自然資料館のある大阪府岸和田市は、「城とだんじりの町」というキャッチフレーズのもと、戦後再建された天守閣をもつ岸和田城と、江戸時代の状態を残す紀州街道を含む城下町、その城下町を中心に行われる「だんじり祭(9月祭礼)」(図 2)や、翌 10 月の秋祭りを主要な観光資源として宣伝し、一定の成果をあげている。その一



図 2. だんじり祭

方で、岸和田市内にある自然環境である、和泉葛城山ブナ林(国指定天然記念物)や金剛生駒紀泉国定公園を含む山地の自然、奈良時代に僧行基によって造成され、2015年に世界かんがい施設遺産に指定された「久米田池」など 400 近いため池群とそれを利用して発達した近郊農業、和泉層群や大阪層群といった化石を産出する地層や多様な地質など、特色ある自然環境やそれらを活用した産業に恵まれているが、これらは城とだんじりほどには周知されていない。ただ、平成 29 年度に行われた岸和田市市民意識調査によると、市民の 54.1%は、岸和田市を「みどりが豊かである」と認識していることから、自然豊かな地域と考える市民は多いと思われる。

2) きしわだ自然資料館と観光

きしわだ自然資料館は、市民からの野生生物の剥製 の寄贈(図3)を契機として、1995年に城下町のなか に開館した博物館相当施設で、寄贈された野生生物の 剥製や地域の自然に関する資料を展示している。当館 の徒歩5分圏内には「岸和田城」と「岸和田だんじり 会館」という市立の観光施設があり、開館直後からこ れらを見学するための「三館共通入場券」(図4)が販 売され、おもに城下町を散策する観光客に利用される。 販売数は岸和田城がもっとも多く、次いでだんじり会 館、もっとも少ないのが当館である(表 1)が、当館 の有料入場者数の約57%は、三館共通券による入館者 である(表2)。このように、図書館や公民館などの生 涯学習機関にくらべると、観光資源として利用される こと多いにもかかわらず、当館はこれまで、観光に関 する施策などに対する積極的な働きかけは行っていな かった。



図3. 寄贈された剥製



図 4. 三館共通入場券



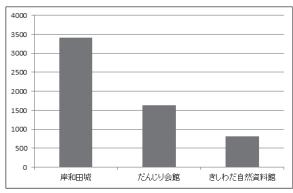
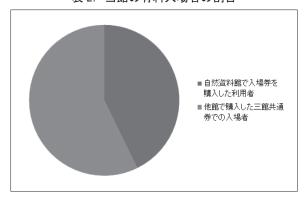


表 2. 当館の有料入場者の割合



3. 「岸ぶら」ブログにおける情報発信

1) 観光ブログ「岸ぶら」とは

岸和田市は、平成 20 年度(2008)から、観光ポータルサイト「岸ぶら」(図 5)を設置し、岸和田市観光振興計画の推進エンジンのひとつとして運営している。このサイトでは、観光振興協会による公式情報の発信だけではなく、公募や推薦で選ばれた岸和田市在住者や在勤者が、市民ライター「岸ぶらが一」となってブログを担当し、各自が興味をもった情報を、独自の視点で定期的に発信している。岸ぶらが一による投稿内容は、だんじりや岸和田城など、既存の観光資源だけではなく、飲食店や郷土食などのグルメ情報や市内の学校行事、農作物や漁獲物、里山保全や市民活動、子



図 5. 岸ぶらトップページ

育で情報など、観光と直接には結びつかないものも多いが、基本的に管理者や市による内容のチェックは行われない。現在、岸ぶらが一は7名で、当館関係者のほか、岸和田市文化事業協会関係者や、市内の建築設計事務所の代表、ミニコミ誌編集者、ケーブルテレビ局スタッフ、祭礼に関する衣料を制作、販売する店舗関係者が担当している。

これは、他の自治体にない独自の取り組みで、岸ぶらが一によるブログの記事は、通常のガイドブックや観光サイトにはない、最新の生きた観光情報を発信できる仕組みとして現在も継続し、平成 28 年度は、1 日あたり平均 2,222 名がアクセスしている。

2)「岸ぶらがー」としての参入

きしわだ自然資料館の普及活動や展示は、岸ぶらサイトの設置直後から、興味をもった他の岸ぶらが一によって取材され、しばしば紹介されてきた。また、書き手の要請に応じて、自然に関する記事のアドバイスを当館が行うことはあったが、当館が主体となったものではなかった。

当館関係者が主体的に関わるきっかけは、「岸ぶら」管理者からの岸ぶらが一の依頼であった。当館に依頼した理由は2つ、ひとつは地域の博物館の利用そのものが、祭礼への参加やグルメ探訪同様、基本的な観光行動であることをブログ訪問者に広く認識してもらいたいこと、もう1点は、地域の自然環境について、長年調査研究している者が紹介することで、身近な自然環境や博物館そのものが、他地域からの訪問者をひきつける地域資源のひとつであるということを、地域住民に広く周知したいからいうことであった。

この依頼を受けて、2016年1月から岸ぶら内に7番目のブログ「きしわだ自然散歩、ワニ目線」を開設し、地域の自然情報を発信することとなった。現在は、週1~2回の頻度を目標に、自然資料館関係者が記事投稿や更新を行っている。なお、当館の関わりは人的なも

のに限られており、サイトの維持管理にかかる経費は、すべて岸和田市観光振興協会が負担 している。

3) 投稿内容について

2018年1月第1週現在、このブログ内で84記事を公開しているが、記事内容でもっとも多くを占めるのは、当館の展示や室内行事の告知、ミュージアムショップの紹介など、当館の利用をうながす内容である(35記事)。次いで、野外での自然観察や学芸員が行った調査研究など、地域の自然の紹介(28記事)、他の地域への出張行事などの活動報告(11記事)、戦前から昭和40年代に発行された、地域に関する観光パンフレットや観光絵葉書や写真の紹介(10記事)である。

当館の活動に関する記事を執筆する際には、公式ホームページの紹介だけではなく、行事を企画するスタッフのおすすめや、その準備作業の様子、以前同様の行事を行った際の写真を多数掲載するなど、記事の閲覧者が興味をもつような内容になるよう留意している。

自然に関するブログ記事を執筆する際には、単に希少生物や美しい風景を紹介するだけではなく、生物多様性や保全上の価値の理解など、地域の自然環境の保全に少しでもつながるような専門的な内容を意識的に盛り込み、地域の自然の保全や調査研究について理解してもらえるよう心がけている。また、地質などの、地味でむずかしいと思われがちなこのテーマに対しても、少しでも興味を持ってもらえるよう、「県の石」「チバニアン」といったタイムリーな話題もまじえながら、簡潔で読みやすいが正確な内容を発信できるよう、留意している。

戦前から昭和 40 年代の観光パンフレットの紹介は、ブログ記事のなかでも閲覧数が多い 人気分野であるが、できるだけ当館の活動と乖離しないよう、戦前に流行した団体レジャー 「兎狩」や、魚釣りの情報など、自然の分野と関連づけられるよう留意している。

5. 観光ブログの可能性

1)掲載内容による効果・公式ホームページと異なる 視点での情報提供

当館の公式サイト(図6)では、きしわだ自然友の 会が運営するミュージアムショップに関する内容や、 自然資料館以外による調査研究、他館が行う岸和田に 関する活動など、博物館が直接関与しない事業の情報 や、臨時的な告知の掲載はむずかしい。一方、岸ぶら のブログは、執筆者が自由に配信できるため、これら



図 6. きしわだ自然資料館公式サイト

の掲載が可能である。また、自然資料館が主催する事業紹介も、公式サイトに掲載する内容は、 概要の簡潔な説明や実施日時や定員、申込方法など、基本的な情報にとどまるが、ブログでは、 ボランティアスタッフによる野外行事の下見のようすや準備物など、より詳細な情報を伝えることができるため、閲覧者がより興味をもちやすくなる。また、公式サイトに掲載した情報は、他の活動との混乱を避けるため、実施後は削除するが、ブログでの記事は削除されることなく蓄積されるため、事業に参加しない方も、それらの情報を閲覧することで今後の行事や博物館そのものに対する興味を持つことができる。実際に、公式ホームページでは行事の雰囲気や内容がわからなかったが、ブログで過去の行事のようすをみて申込をされた方や、ブログに掲載された画像で特別展に興味を持ち、当館に初めて来館した方、過去の干潟の行事の実施記事を見て、大阪湾に関する質問を寄せた利用者もいた。

2) 閲覧者の居住地域からみる可能性・岸和田市周辺住民と岸和田市民へのアプローチ

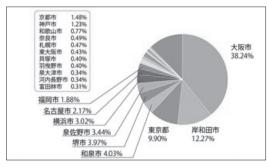


図 7. 平成 28 年度岸ぶらサイト訪問者の居住地 (平成 28 年度岸和田市観光計画および 「岸ぶら」実施報告書より)

平成28年度のブログサイト全体の閲覧者(793,212名)の居住地域を分析すると、大阪市内がもっとも多く(全体の約38%)、次いで岸和田市内(同12%)、3位が東京都内(同10%)であった(図7)。このうち、もっとも多い大阪市内や、岸和田市周辺の近郊都市からのアクセスがここ数年増加傾向にあることから、このサイトがその地域の在住者に、当館の存在を知ってもらうきっかけのひとつになると考えられる。

岸和田市民の閲覧が多いことも注目すべき点である。これは、自治体が運営する観光客むけに作成された名所案内的なサイトと異なり、岸ぶらが一が実際に取材した、多様な地域情報が常に追加されるため、本サイトが岸和田市民の情報源としても役立つものであると認識されていることを裏付けるものと考えられる。当館が本ブログに参加した目的のひとつに、多くの市民に親しまれているこのサイトに記事を掲載することで、地域の博物館や自然環境が他地域の住民をもひきつける地域資源であることを認識してもらうことがあったが、その目的を十分達成することができると思われる。

また、このサイトでは他の岸ぶらが一が、それぞれの得意分野である地場産業、文化活動、郷土史、建築などの記事を掲載していて、それらと、当館の自然に関する記事などを共に閲覧することで、その地域を多様な面から理解できると考えられる。多様な分野に興味を持つ地域住民の増加は、地域振興を担う人材育成の面からみても有益であると考える。

3) 到達経路からみる可能性・訪問者の増加や長期的な閲覧について

岸ぶらブログへの到達経路を分析したところ、平成28年度は検索エンジン(おもにGoogle 音声検索)が全体の69%を占め、次いでリピーターによる直接訪問が15%、次いでSNSからが約8%である(図8)。平成26年度からSNS経由の訪問者が増加する一方、ホームページのバナーや相互リンクからのアクセスが急激に減少している。たとえば、平

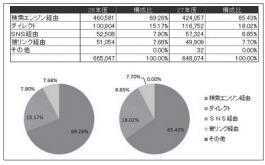


図8. 平成27年度(右)および28年度の 岸ぶらサイトへの到達経路(平成28年度 岸和田市観光振興計画および「岸ぶら」 実施報告書より)

成 20 年開設当時、到達経路としてもっとも多かった岸和田市公式サイトからのアクセス数は、現在開設時の 10% 程度にとどまり、平成 26 年度からは $67,801 \rightarrow$ 平成 27 年度 $19,519 \rightarrow$ 平成 28 年度 13,479 と急激に減少した。これは、スマートフォン版サイトの増加により、画面内にリンクのバナーが掲出されないことなどが原因のひとつであると考えられる。

また、もっとも多い到達経路である、検索エンジン経由のアクセス増加は、話題の多様さによりもた

らされるため、調査研究や資料収集など、普及活動以外の基本的な博物館活動の紹介など、一見観光と直接関係のないものについての記事投稿も有効であると考えられる。このように蓄積された多様な記事は、将来的に岸和田の博物館や自然環境に関するアーカイブとしての役割も担うことになるだろう。

また、当館が担当するブログのアクセス数は、記事投稿後のアクセスカウントの推移から、 岸ぶら SNS (岸ぶら Facebook や Twitter のアカウント) や、それらの閲覧者による拡散によっ て急激に増加することから、博物館で行う普及活動の告知だけではなく、博物館が行う行事 の補助ボランティアや、地域の自然を調べる市民調査などに対する呼びかけを SNS 経由で拡 散することは、より多くの参加者を募る場合有効と考えられる。

ただし、SNS は瞬間的な拡散には有効であるが、過去の情報を検索して閲覧することは向いていない。一方、ブログサイトは、同じ URL にアクセスすることで必要な情報を得ることができることから、ブログと SNS 両面の特性をいかした利用が必要であろう。

6. これから必要なこと

1) 更新頻度の増加と多様な内容の記事提供

当館は、話題にはことかかないが、小規模な博物館のため、人的な問題で更新が滞ることが多い。岸ぶらが一の更新頻度の目標は1週間に2度とされているが、実際にはほとんど達成できていない。

また、担当する書き手が現時点では少ないため、内容に偏りが出る傾向にある。閲覧数の増加に必要となる多様な話題提供を行うには、友の会会員や当館の非常勤学芸スタッフである、アドバイザーや専門員などにも協力を求めたいところである。また、当館で博物館学実習やインターンシップを行う学生や、実際に当館の事業に参加した方にも原稿執筆を依頼するなど、多様な立場の視点による記事が増えることは、当館や当館の自然環境をより深く理解する上で有効であると考えられる。

2) 新聞記事やマスコミとの連携

全体的な閲覧数の推移の分析から、だんじりなどの祭礼時期のほか、岸和田市に関する話題が新聞やテレビなどの広報媒体にとりあげられた際、サイトの閲覧数が大幅に上昇することがわかっている(図 9)。この動向を把握するには、岸和田市広報担当者や観光担当者などの情報発信者との連携が必要であり、できれば取り上げられる前の早期記事作成体制を確立する必要がある。

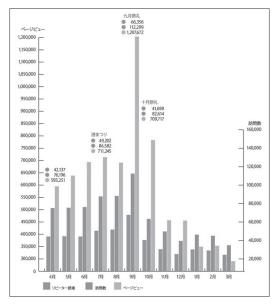


図 9. 平成 28 年度岸ぶらサイトの訪問者数 およびページビュー数の推移 (平成 28 年 度岸和田市観光振興計画および「岸ぶら」 実施報告書より)

7. おわりに

開設から 10 年近く継続する「岸ぶら」サイトは、今や観光目的のみならず、地域振興の役割も担いつつある。実際に、このサイトがきっかけとなって広く周知され、地域振興の核になりつつある資源もある。このサイトのブログに当館が参加を依頼されたということは、当館が観光を含む地域振興における重要な役割を期待されているとも考えられるが、この役割は、博物館本来の事業である調査研究や資料収集を継続して行い、蓄積し、次世代へ確実に継承することで、はじめて果たせるものではないだろうか。今後は、地域振興へ関与の多少が、その博物館の基礎体力とみなされるかもしれない。